

OLIVE-SPIRITS

[関東学院学報 オリーブ・スピリッツ]



Sep.2013 No. 46

OLIVE-SPIRITS 関東学院学報
KANTO-GAKUIN NEWS No.46 2013.9

関東学院学報 第46号 2013年9月20日
発行:関東学院 編集:関東学院法人事務局広報課



Contents

- p.2 それぞれの展望
- p.4 KANTO-GAKUIN Who's who?
- p.8 関東学院を卒業した国際人
- p.9 ディレッタントたち
- p.10 「人になれ 奉仕せよ」を体現する人々
- p.11 横浜ちょっといい話
- p.12 関東学院各校だより
- p.15 KANTO-GAKUIN NETWORK

Table of Contents

- p.2 Respective Outlooks
- p.4 Who's Who?
- p.8 Cosmopolitan graduate of Kanto Gakuin
- p.9 Dilettantes
- p.10 Embodying the serve the world ethos
- p.11 A tale of Yokohama
- p.12 Every school's needs
- p.15 Kanto Gakuin Network



関東学院のびのびのば園にて撮影。
松田和憲園長と、元気に遊ぶ子どもたち

学校法人
関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東 1-50-1
法人事務局 ☎045-786-7028 (代)
<http://www.kanto-gakuin.ac.jp>

はじめに、増田日出雄理事長にお話をうかがいます。増田理事長は常務理事時代から、飯田前理事長とともに学院改革の指揮を執っていました。その飯田前理事長が昨年、病気というアクシデントに見舞われ、増田理事長が後任となりました。こうした経緯から、増田理事長は「改革の路線をさらに前進させていくことが使命」と語ります。

私は飯田前理事長とほぼ同時に学院に来て、共に改革に向けたグランドデザインを作成してまいりました。学院各校の教育目標、行動指針といった中期計画は既に完成しています。

私たち、この中期計画を「オリーブ7」と命名しました。これからはオリーブ7に則って、単年度ごとの事業計画をつくる。その体制を本格始動させていきます。

増田理事長は、4月以降に学院の各部署を訪れたそうです。

「一般的な企業では、実績を上げてはじめて評価されます。ところが学校は少々雰囲気が異なりました。

プラン 자체は立派なものが出来上がりますが、そのプランの実行性については、幾分曖昧に終わ

ります。

本学院ではどうしても甘かったのかもしれません。

教育機関は、一般企業と異なる

つてしまふ。実際に数年前懸案事項がいまだに滞留していることもありました。こうした部分が、

企業としての合理性を受け入れなければ、競争が激化する時代に勝ち残れません。いまこの学院に必要なのは、もっとアクティブライブに行

動し、体質改善をしていくことです。

今年4月に就任された3名の方々に、

自らの抱負と学院の将来を語っていただきます。

それぞれに立場は異なりますが、

関東学院をより良きものにしたいと願う

眼差しは同じです。

それぞれの 展望

今年4月に就任された3名の方々に、
自らの抱負と学院の将来を語っていただきます。

それぞれに立場は異なりますが、
関東学院をより良きものにしたいと願う

眼差しは同じです。

はじめに、増田日出雄理事長に見舞われ、増田理事長が後任となりました。こうした経緯から、増田理事長は「改革の路線をさらに前進させていくことが使命」と語ります。

私は飯田前理事長とほぼ同時に

学院に来て、共に改革に向けたグ

ラントデザインを作成してまいり

ました。学院各校の教育目標、行

動指針といった中期計画は既に完

成しています。

私は、この中期計画を「オリーブ7」と命名しました。これ

からはオリーブ7に則って、単年

度ごとの事業計画をつくる。その

体制を本格始動させていきます。

増田理事長は、4月以降に学院

の各部署を訪れたそうです。

「一般的な企業では、実績を上げてはじめて評価されます。ところが学校は少々雰囲気が異なりました。

プラン 자체は立派なものが出来上がりますが、そのプランの実行性については、幾分曖昧に終わ

ります。

本学院ではどうしても甘かったのかもしれません。

教育機関は、一般企業と異なる

つてしまふ。実際に数年前懸案事項がいまだに滞留していることもありました。こうした部分が、

企業としての合理性を受け入れなければ、競争が激化する時代に勝ち残れません。いまこの学院に必要なのは、もっとアクティブライブに行

動し、体質改善をしていくことです。

今年4月に就任された3名の方々に、

自らの抱負と学院の将来を語っていただきます。

それぞれに立場は異なりますが、

関東学院をより良きものにしたいと願う

眼差しは同じです。

はじめに、増田日出雄理事長に見舞われ、増田理事長が後任となりました。こうした経緯から、増田理事長は「改革の路線をさらに前進させていくことが使命」と語ります。

私は飯田前理事長とほぼ同時に

学院に来て、共に改革に向けたグ

ラントデザインを作成してまいり

ました。学院各校の教育目標、行

動指針といった中期計画は既に完

成しています。

私は、この中期計画を「オリーブ7」と命名しました。これ

からはオリーブ7に則って、単年

度ごとの事業計画をつくる。その

体制を本格始動させていきます。

増田理事長は、4月以降に学院

の各部署を訪れたそうです。

「一般的な企業では、実績を上げてはじめて評価されます。ところが学校は少々雰囲気が異なりました。

プラン 자체は立派なものが出来上がりますが、そのプランの実行性については、幾分曖昧に終わ

ります。

本学院ではどうしても甘かったのかもしれません。

教育機関は、一般企業と異なる

つてしまふ。実際に数年前懸案事項がいまだに滞留していることもありました。こうした部分が、

企業としての合理性を受け入れなければ、競争が激化する時代に勝ち残れません。いまこの学院に必要なのは、もっとアクティブライブに行

動し、体質改善をしていくことです。

今年4月に就任された3名の方々に、

自らの抱負と学院の将来を語っていただきます。

それぞれに立場は異なりますが、

関東学院をより良きものにしたいと願う

眼差しは同じです。

はじめに、増田日出雄理事長に見舞われ、増田理事長が後任となりました。こうした経緒から、増田理事長は「改革の路線をさらに前進させていくことが使命」と語ります。

私は飯田前理事長とほぼ同時に

学院に来て、共に改革に向けたグ

ラントデザインを作成してまいり

ました。学院各校の教育目標、行

動指針といった中期計画は既に完

成しています。

私は、この中期計画を「オリーブ7」と命名しました。これ

からはオリーブ7に則って、単年

度ごとの事業計画をつくる。その

体制を本格始動させていきます。

増田理事長は、4月以降に学院

の各部署を訪れたそうです。

「一般的な企業では、実績を上げてはじめて評価されます。ところが学校は少々雰囲気が異なりました。

プラン 자체は立派なものが出来上がりますが、そのプランの実行性については、幾分曖昧に終わ

ります。

本学院ではどうしても甘かったのかもしれません。

教育機関は、一般企業と異なる

つてしまふ。実際に数年前懸案事項がいまだに滞留していることがありま

す。こうした部分が、

企業としての合理性を受け入れなければ、競争が激化する時代に勝ち残れません。いまこの学院に必要なのは、もっとアクティブライブに行

動し、体質改善をしていくことです。

今年4月に就任された3名の方々に、

自らの抱負と学院の将来を語っていただきます。

それぞれに立場は異なりますが、

関東学院をより良きものにしたいと願う

眼差しは同じです。

はじめに、増田日出雄理事長に見舞われ、増田理事長が後任となりました。こうした経緒から、増田理事長は「改革の路線をさらに前進させていくことが使命」と語ります。

私は飯田前理事長とほぼ同時に

学院に来て、共に改革に向けたグ

ラントデザインを作成してまいり

ました。学院各校の教育目標、行

動指針といった中期計画は既に完

成しています。

私は、この中期計画を「オリーブ7」と命名しました。これ

からはオリーブ7に則って、単年

度ごとの事業計画をつくる。その

体制を本格始動させていきます。

増田理事長は、4月以降に学院

の各部署を訪れたそうです。

「一般的な企業では、実績を上げてはじめて評価されます。ところが学校は少々雰囲気が異なりました。

プラン 자체は立派なものが出来上がりますが、そのプランの実行性については、幾分曖昧に終わ

ります。

本学院ではどうでも甘かったのかもしれません。

教育機関は、一般企業と異なる

つてしまふ。実際に数年前懸案事項がいまだに滞留していることがありま

す。こうした部分が、

企業としての合理性を受け入れなければ、競争が激化する時代に勝ち残れません。いまこの学院に必要なのは、もっとアクティブライブに行

動し、体質改善をしていくことです。

今年4月に就任された3名の方々に、

自らの抱負と学院の将来を語っていただきます。

それぞれに立場は異なりますが、

関東学院をより良きものにしたいと願う

眼差しは同じです。



今夏から政策レビューという取り組みを始めています

を通じた学習方針へのシフトを促しています。

私は両者のバランスが重要だと考えます。教師が教えることは大切ですが、子ども自身が体験を通して学ぶことはより大切です。逆に、体験的な学習方法ばかりに重

具体的には、お祈りができる子に育てたい。生かされていることを知る子に育てたい。このふたつは、子どもたちが将来生きていくうえで糧となることです。それにキリスト教が持つ力を教師自身もとことん信頼することが大切です。聖書が持っている言葉の力、聖書の伝えようとしていることを教師側も迷わずに伝える。それらは学校運営のとても重要なポイントとなるのと同時に、公立校との差別化につながると考えます。

聖書の面はいかがでしょ。文部科学省はいま、知識詰め込み型の学習方針から、体験学習

キリスト教をベースとした教育に信頼と自信を持つ

今夏から政策レビューという取り組みを始めています

していません。そこで、教師が教えることは大切ですが、子ども自身が体験を通して学ぶことはより大切です。逆に、体験的な学習方法ばかりに重

具体的には、お祈りができる子に育てたい。生かされていることを知る子に育てたい。このふたつは、子どもたちが将来生きていくうえで糧となることです。それにキリスト教が持つ力を教師自身もとことん信頼することが大切です。聖書が持っている言葉の力、聖書の伝えようとしていることを教師側も迷わずに伝える。それらは学校運営のとても重要なポイントとなるのと同時に、公立校との差別化につながると考えます。

聖書の面はいかがでしょ。文部科学省はいま、知識詰め込み型の学習方針から、体験学習



関東学院六浦小学校 校長 石塚武志

4月に校長として就任。子どもたちが自分を快く受け入れてくれたことに感謝していると、石塚校長は語ります。「子どもたちとのコミュニケーションは何よりも大切。校長室の扉も常に開放して、私自身、子どもたちとの遊びと対話を重ねています」。

研究活動の活性化です。

これらの目標を実現するために、本間理事は、まずそれぞれの立場で責任あるポストにいる教職員が一堂に会し、学院の重要課題と改革の方向性を共有する場として打ち出しています。

「これは課長職以上の事務職員、センター長以上の教員、担当事務職員、合わせて150余名が一泊二日で泊まり込み、集中した議論を交わす新たな取り組みです。扱うテーマは、学院の最優先課題である退学率の問題、地域貢献の問題など。これら関東学院にて開催の重要なテーマを、出席者全員で現状認識すると同時に、その場で対策案まで提起。さらには、それぞれの立場を超えた自由な発言を交わす新たな取り組みの中、教師がミーティングをいつにするか、が教師の力量なんです。

特に小学校の段階では、子どもたちに興味・関心をいかに持たせるかが不可欠です。子どもたちの自発的な取り組みの中で、教師が飛躍のポイントを絶妙なタイミングで与える。それが覚える授業から考える授業への転換点となるで

一回の英単語コンテストで、
2013年度学内トップの成績を収めた野尻登紀子さん。

尻さんは将来、英語が生かせる仕事に就きたいと、とりわけ語学学習に意欲をみせています。

「住まいが横須賀なので、たしかにアルファベットが日常に溢っていました。小学校時代にはハーフの友人もいましたね。でも改めて英語の必要性を感じたのは、家族で台湾を旅行した時のこと。英語圏ではない人たちが、英語を通じて語りかけてくれた時に強く思つたんです」。

自身は中国語が話せず、相手は日本語が話せません。それでも英語を通じて、コミュニケーションを図ることができたそう。その成功体験が、野尻さんの原動力になつたといいます。

「いまはまだ、将来に対する具体的なビジョンがあるわけではありません。大学へ進学して、じっくり考えたいと思っています。それから大学生のうちに、一度は留学を経験してみたいですね」。

先生と生徒との距離が驚くほど近いんです



関東学院六浦中学校・高等学校 6年生 野尻登紀子

夏期休暇に入り、吹奏楽部が例年出場するコンクールを直前に、最後の追い込みで励む野尻さん。「同じメンバーで出場できる機会は、たった一度しかないんです。それを思うと、練習にも熱が入ります」。そのコンクールが終わると、将来の進路を見据えて勉強に集中します。

KANTO-GAKUIN Who's who?



株式会社ミハマ商会 代表取締役社長 森 幸博氏

1923年創業の「ミハマ」は、元町発祥の靴の名店。履きやすく、健康的でノーブルなデザインは、男女を問わず、いま多くのファンを魅了し続けています。その「ミハマ」のご子息である森さんは、学院を卒業した後に先代の遺志を継ぎ、現在は3代目としてご活躍されています。

Les Chaussures **MIHAMA**

ただいま、同窓仲間で オヤジバンド奮闘中です!

中
学、高校と三春台に通い、
さらには関東学院大学で学んだ森幸博さん。森さんは特に、この数年で同窓生と頻繁に会うようになったといいます。

「自分も50代になり、身に滲みてわせる日々です（笑）」。

はいいものですね。私は中学、高校と、学校の仲間とバンドを組んでいたのですが、いま、その当時のメンバーでオヤジバンドを再結成することになつて。ですから、二週に一度は、スタジオで顔を合わせる日々です（笑）」。

レパートリーも当時と同じ。デイープ・ペープル、ブラック・サンズ、クリーム、ジェフ・ベックなど、ブリティッシュロックを代表する名称が並びます。

「我々は1970年代のイギリスのハードロックに影響を受けた世

で台湾を旅行した時のこと。英語圏ではない人たちが、英語を通じて語りかけてくれた時に強く思つたんです」。

「この学校は、先生と生徒の距離がとても近い。勉強はもちろん、部活動を通じても、先生がとても親身に接してくれるんです。ですか

ら先生と生徒との関係性がとても良い。これが、生徒数がたくさんいるようなところではそうはいかないかもしれません」。

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行事における総務担当もこなしています。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一貫ということも、実際、

野尻さんは吹奏楽部の木管バー

トリーダーを務める傍ら、学内行

事における総務担当もこなしています。

時から5年上の先輩たちの姿を見

ます。その中で問題にも直面した

そうですが、顧問の先生はもとよ

り、多くの先生方から温かな支援

を受けてきたといいます。

「中高一

横浜には、かつて日本中から
港湾労働者が集まっていました。

ると感じたからです。私たち教育者が提供できることは教科書

「人になれ 奉仕せよを
体現する人々

右は在校生、卒業生なら誰もが知っている関東学院の校訓です。
現在の教育現場にどのように生きているのでしょうか。森島学院長に尋ねました。

共に寿町での越冬活動に参加し、布や衣類配りもしました。これらの活動を通して、自己の内にある偏見を乗り越え、人と共に生きる力を醸成する心が養われ、その後の人生に大きな影響が与えられたと思っています。

学院においても、初期の宣教師の活躍や「ゼツルメント」に代表されるキリスト教社会活動が多く、先輩方により展開され、その歴史と伝統は学院教育活動の核を形成してきました。日本は豊かになり、時代と共に活動の生み出しが進んでいった

学の精神であるキリスト教に基づく「奉仕の精神」がいまなお脈々と息づいています。課外活動であるボランティアも大切ですが、学生たちに眞の社会性を育むためには、かつて関東学院セツルメントが示唆したように、学びの現場を教室の外に設定し、取り組むべき社会的問題がうごめくところに自ら出かけ、共に取り組む必要があ

教育の場を構築することです。これこそが、学院教育に課せられた責務だと考えたのです。つまりここに「サービスラーニング（奉仕教育活動）」とは、教室内での「事前研修」→校外での「実施」→教室に戻っての「振り返り」という一連の学び社会性を深め、実社会で具体的に貢献できる「人」を育てる教育的試みなのです。90年代からそうした現場に学生を送り出す取り組みを始めました。社会的弱者が暮らす場所は必然的に危険な場所にならざるを得ません。細心の注意が必要ですが、そういう場所だからこそ得られる経験やその価値は計り知れないものがあるのです。

右は、現在簡易水道の敷設、災害で流失した橋梁の復旧、子供図書館の開設等を奥地の集落でスタートしました。また学生の設計したサービスラーニングセンターを拠点に本格化したシェルター兼教会堂建設支援活動では、村人と共に9集落に9棟を建設しました。この建物は災害時の避難所のみならず、地域のコミュニティセンターとしても機能し、子どもたちへの識字教育や青少年年・婦人への衛生教育が継続的に行われています。急速に都市文化が流れ込む集落において、教育環境と生活環境の整備は急務であり、差別・貧困・労働搾取の連鎖を断ち切ることが子どもたちの自立と自己実現につながるからです。

既に10年以下にわたり、延べ200人以上の学生が現地で奉仕しました。初めて行く場所で

A portrait of Professor Kuniaki Morishima, the Dean of the Graduate School of Education. He is an elderly man with glasses and a mustache, wearing a dark suit and tie. The background is slightly blurred, showing colorful stained glass windows.

が知っている関東学院生きているのでしよう



横浜ちよつといい話

小林名誉教授は2011年3月31日付で、学院を定年退職。その間約40年、歴史学や英國史で教鞭を執られました。

私がこの学院の学生として六浦で学ぶようになるのは昭和35年。今から53年も前のことにあります。当時はまだ、大学の前は一面海でした。ちょうど正門の前にボート屋がありましてね。釣りも楽しめました。平潟湾はハゼの釣り場として有名でした。

六浦の入り江は“六浦湊”と言いましてね、鎌倉時代には重要な内貿港として機能していました。船を停泊させる船溜まりがあり、港湾として非常に適していました。さうにその先には金沢文庫があり、文化と経済の要所として栄えました。また戸末期には、風光明媚な観光名所としても脚光を浴びることになります。歌川広重による「金沢八景」には、学院からすぐそばの夕照橋・内川橋も描かれています。この周辺一帯は、その当時の名勝地でもあったわけですね。

八景島や人工浜がある金沢沿岸域が埋め立てられたことで、当該地の漁師は漁業権を放棄せざるを得なかった。ところが、工事が遅延したことや漁師の転職が困難なこともあって、横浜市は彼らに再び漁業を営むことを認可しました。小柴にしても

名譽教授は2011年3
間約40年、歴史学や英國
学院大学ならびに大学院



A tale of Yokohama

Retired Kanto Gakuin University Professor Kobayashi first encountered the university in 1960 as a student. Here, he narrates Yokohama's history.

The old fishing villages of the Mutsuura area have a long history. Fishermen have immigrated here from across Japan since the Kamakura period, and the fishing industry has flourished. The area was an acclaimed place of scenic beauty in the Edo period, depicted in famous artworks by Utagawa.

As the beaches and islands were gradually built up, fishermen lost their fishing rights. But then the Tokyo Bay waters grew clear again, and the fishing industry was reborn. Subsequently, factories in the newly established industrial zone become iconic brands of cosmopolitan Yokohama; amid all this new development, a fresh concept of Yokohama has emerged.

A full-body photograph of a man standing in front of a large, dark wood double door. He is wearing a light grey blazer over a white shirt, dark trousers, and a straw fedora hat. He is positioned on a brick-paved walkway, with a metal frame and a concrete wall visible to his left.

関東学院大学 名誉教授 小林昭夫

小林名誉教授は、この金沢区エリアがとても気に入っているらっしゃるそうです。「学生の皆さんにとって、いさかのどかすぎると感じるのかもしれません、歴史を含む文化資源や自然環境にも恵まれているので、学生が勉強するには良い環境ではないでしょうか」。

金沢にしても、この地域の漁師たちはすでに漁業権を放棄していたのですが、横浜市が漁業協同組合を設置して、残存漁業の形で漁を続けさせているんですね。

しかも金沢区の埋め立ては、これまでとは趣が異なりました。かつては大企業の工場を誘致す

るために行われてきた臨海部開発ですが、横浜市の金沢沿岸域の埋め立ては、市内の住宅と工場の混在を解消して、都市機能を活性化させようという意図に基づくものでした。完成した工業団地には、キャラバンコーヒーなどをはじめ、かわり、霧笛館など、横浜にちなんだブランドの

工場が製造を開始しました。それらは、有名ですが、資本という面では小規模なもの。そうした工場を敢えて誘致しているのも、今までの工業団地とは異なる街づくりを目指した結果です。それも横浜市の新しい発想だったと思います。

関東学院

School Topics

各校だより

関東学院各校それぞれを代表して、先生方が普段、どのようなことを念頭におき、教育の現場に立っているのかをうかがいました。

学生の皆さんには、エンジニアとしての総合力を身につけてほしい

理論に対する理解はあっても、実際にモノが作れない学生さんが非常に多いんですね。電気・電子コースの授業を担当しているのですが、電気・電子機器で使われているセンサー・マイコン・アクチュレーターのどれでもいいのですが、例えばいざモーターを動かすといった時に、それらを接続して動かすことができる学生さんが多いです。たゞ機器を接続さえすれば動くと思うのかもしれません、がない学生さんが多いです。

だけではないんですよ。マイコンの制御用プログラムを書いたり、センサーの稼働電圧とマイコンの稼働電圧を合わせたり、あるいはバッテリーとマイコンの稼働電圧を合わせたりする必要があるんですね。レギュレー

ーターなどの電子デバイスを組み込む方法についても、授業の中

で修得したことを自分自身で統合していくしかなりません。

学生の皆さんには、そうした総合的な力を身につけて、実際にモノを動かせるエンジニアになつてほしい。このことを授業で教えるのは難しい部分もありますが、プロジェクト系の科目ではそつした側面も組み込んで

南極での経験を、時折生徒たちに伝えています



関東学院大学 理工学部 准教授
元木 誠



OLIVE-SPIRITS 12

私が教えているのは中学の理科と、高校の生物です。大学は水産学部を卒業しましたが、魚や漁業よりも、海の環境のことをおもに学んできました。しかし、生物も環境を作る一つの要素なので、必然的に生物も研究対象となります。

生物部では、校内にいる生物

など、私は南極で実感しま

した。一方でペンギンは人間を恐れず近寄ってくるなど、野生動物らしからぬ一面ももっています。生徒たちはそうしたエ

ピソードも伝えています。

生物部では、校内にいる生物

などを季節ごとに調査し、これが毎年どう変わっているのかを調べています。特に蝶や蛾の仲間の種類が豊富で、校内の緑の豊かな環境に耐えて生きる、人間よ

りずっとすごい力を持った生物

なのだと、私は南極で実感しま

した。一方でペンギンは人間を

なつてほしい。このことを授業で教えるのは難しい部分もありますが、プロジェクト系の科目ではそつした側面も組み込んで

いきたいと思っています。

問題に対してどのようなアプ

ローチで解決するか。その解法

をもとに、自分自身で工程を進

める実行力。こうしたものを見

せひ学んでもらいたいですね。

将来、エンジニアになるには、

問題発見力、実行力、改善力が

必ず必要になっていくと思いま

す。そつした幅広い総合的な力

を自分の中で作り上げていけば、

新しい技術が入ってきた時にも

対応していくと考えています。

将来、エンジニアになるには、

問題発見力、実行力、改善力が

必ず必要になっていくと思いま

す。そつした幅広い総合的な力

を自分の中で作り上げていけば、

新しい技術が入ってきた時にも

対応していくと考えています。

将来、エンジニアになるには、

問題発見力、実行力、改善力が

必ず必要になっていくと思いま

す。そつした幅広い総合的な力

を自分の中で作り上げていけば、

新しい技術が入ってきた時にも

対応していくと考えています。

将来、エンジニアになるには、

問題発見力、実行力、改善力が

必ず必要になっていくと思いま

す。そつした幅広い総合的な力

を自分の中で作り上げていけば、

新しい技術が入てきた時にも

対応していくと考えています。

将来、エンジニアになるには、

重厚なドアを開けるとそこは笑顔溢れるレストラン パパダビデ

「イタリアンレストラン『パパダビデ』をオープンして8年。お子さんと一緒に、ご家族で来店される方が多いですね」とマネージャーの中島康至さん。「入り口のドアがかなり重厚なので、最初は気後れされる方も多いんです」と笑いながら説明されますが、来店者の7~8割がリピーターということからも、同店の居心地の良さがうかがえます。

オーナーである前田征道さんは関東学院の卒業生。地元・横浜でお店を開いた前田さんの目標は、地元に愛される店になること。「横浜は地元愛が強いんです。地域の方々が楽しく食事ができる店でいることが人気の秘訣かもしれません」と中島さん。いまや街の顔となっています。

同店の人気メニューは、シェフが厳選した旬の食材を使った料理の数々と専任スタッフによる窯焼きピザ。具材によって生地を変えるこだわりの味は、多くのファンを獲得しています。さらに「ピザをつくるスペースがガラス張りなので、子どもたちは張り付いて見ています。生地でイルカやアンパンマンをつくったり。ガラス越しのエンターテインメントですね」。こうしたコミュニケーションから、子どもたちのアイデアによる特製ピザも誕生しました。さて、そのお味は? 「第3日曜日開催の『ピツツエリア』でお試しを。ほかにも小皿料理やパスタなどメニューは100種類ほど揃えています。小さいお子さんと一緒にお越しください」。



関東学院の卒業生が経営に携わっているお店へ行つきました。今回はイタリアンと和食、ふたつの“美味しい”をご紹介いたします。



170年以上続く庶民の味はこれまで、これからも 泉平 馬車道本店

開店中は引きも切らずお客様がやってきて、昼時ともなれば行列ができる「泉平 馬車道本店」。横浜でいなりすしといえば「泉平」の名前が挙がる地元の名店ですが、これほどの人気を維持し続けている秘密は、秘伝の汁を使って煮上げた油揚げと、塩と酢だけで味つけされた、さっぱりとした酢飯の絶妙なバランス。店長の鈴木好文さんはいつも変わらないこの味を「うちの味は、開港当時の港で汗水たらして働く労働者のためにつくられたものなんです。だからお揚げは少し濃いめの味つけにして、酢飯には砂糖を使わずにさっぱりと仕上げて、お揚げの甘みが引き立つようにしているんです」と説明されます。いまは半分にカットされていますが、以前は細長いままだったとか。それも作業中に食べやすいようにした工夫だったそうです。

同店で一番人気は、いなり4個とかんぴょう巻き1本がセットになった鈴木さんが手にしている“まぜパック”(720円)。一日平均300~400パックが出るとのこと。「私が子どもの頃、泉平のおいなりさんといえば駆走でした」と笑顔で話してくれたのは、近くに来た際は必ず買って帰るという50代の女性。1839(天保10)年の創業当時から同じように地元の方々に愛されてきたに違いありません。この伝統の味を守り続けているのが関東学院卒業生の相山大輔さん。彼の手によって、これからも変わらぬ“泉平の味”は継承されていくことでしょう。

学べるようになります

乳幼児期はテレビやゲームといったバーチャルの世界ではなく、身近な土、水、石、虫など自然に触れていくことが大切です。友だちとの関わりについても、実際に、友だちや保育者に触れ、相手の思いを感じ、自分の思いを表せたり、悔しい時に「悔しい」と言えたり、誰かと一緒に何ができることが「嬉しい」と感じられることがとても大切です。

子どもたちの関心や探求していく意気を持ち、心から満足できるように支えていきたいという気持ち、一方的に教えたり先回りして導くのではなく、「子どもに寄り添い、共に考え学んでいく」という姿勢を心掛けています。また、友だちとけんかをして意地の張り合いになる子どもたちも、一緒に、子どもの気持ちを受けとめながらも「相手はどう思っているのだろう」「自分はどうする」というのだろう」と助けています。子どもたちは、どの子も大切な存在です。それを子ども同士が一緒に感じ合い、のびのびと生活し学び合っていくように、これからも努めていきます。



自分でできる役割を考えて行動できるようになつてほしい

大人になった時に自分と違う考え方や価値観の異なる人とも共生していく力を持った、小さいうちから日々の生活の中で体験させています。ちょっと苦手だなという事柄に対しても、どう関わるかを考えて行動してみる。そこに支えとして私たち保育者が寄り添っています。安心できる環境の中で信頼関係を育み、また遊びのつながりから不思議なことや面白いことを発見していく観察力も養っています。いろいろな友だちと関わる中で、自分の得意なこと、不得意なことが分かり、同時に友だちへの理解も深まっていきます。そこで学年ごとのクラス活動に留まらず、縦割りのグループや、クラス間の交流保育も大切にして、できるだけ子どもたちが関わり合いを持つようにしていま



編集後記

1990年に創刊し、これまで45号を発行してきた「関東学院学報」ですが、今号より「OLIVE-SPIRITS」という名称にリニューアルしました。これは、「人になれ奉せよ」という校訓を大切にしながら、創立以来脈々と流れる関東学院の精神をこれから関東学院ファミリーと一緒に引き継いでいきたい、という願いを込めて付けたものです。

また、誌面構成も刷新し、「人」に焦点を当て、関東学院らしさを表現する「人」を取り材し、紹介していきたいと考えています。関東学院に在学している園児・児童・生徒・学生、保護者の方々、卒業生、教職員それぞれが、何を考え、どう行動し、何を想い、どのように社会や地域と関わって生きているかを中心にこれから取り上げていく予定です。

「OLIVE-SPIRITS」は、皆さんと一緒に作り上げていく冊子です。社会で活躍している卒業生の方、魅力的な活動をしている方など、関東学院の精神を体现し、活躍されている方がいらっしゃいましたら、関東学院広報課まで、ぜひお気軽に情報を寄せください。

関東学院 広報課: ☎(045)786-7006
kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

広報課から

関東学院は、地域の方々や、多くの卒業生、保護者の皆さまを含めたステークホルダーの方々との連携をこれまで以上に深め、地域活性化のための拠点となっていきたいと考えています。私たちが生活するこの地域をより魅力的な街としていくための役割を担っていきたいと思っております。そのためには、関東学院が地域や社会からより強く支持され、信頼される教育機関となっていかなければなりません。この想いの実現には、ステークホルダーの皆さまのご理解、ご協力がとても重要です。改革を進める関東学院に、ぜひ皆さまのお力を貸してください。

広報課では、本誌「OLIVE-SPIRITS」やホームページ等を通じて、関東学院において現在進行形で進んでいるさまざまな活動や取り組みに関する情報を、その目的を明確にしながら、積極的に発信してまいりますので、ご意見、ご要望、情報提供など、関東学院広報課までお気軽にお連絡ください。